

教育検討委員会報告事項資料

2019年11月24日作成

担当理事 市川 洋

1. 「第2回アースサイエンスウィーク・ジャパン in 静岡」開催報告

1) 静岡県立ふじのくに地球環境史ミュージアム

- ・特別講演(はやぶさ2: JAXA 吉川氏) 10月19日
- ・地球科学研究発表(静岡県地学会等) 10月13日
- ・高校生学術研究発表(静岡県高校生) 10月13日
- ・特別展示(はやぶさ2の模型・隕石) 10月13日~20日
- ・地球家族会議 10月19日、20日
- ・ジオガシキッチン 10月19日

2) 伊豆ジオパーク巡検 10月20日(ジオリア、大室山等) 15名

2. 「全国高校地学教育関係者情報交換会」開催報告

開催日: 11月23日(土), 24日(日)

場 所: 東京大学本郷キャンパス 教育学部 3階 358 講義室

主 催: 日本地球惑星科学連合教育検討委員会

後 援: 東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

趣 旨: 次期高校学習指導要領でも地学基礎の設置が存続し、形式的にはあと十数年間、履修率25%程度の現状維持を図れる情勢となりました。しかしながら、依然として全国的に高校地学教員の採用は少なく、現状では、若手の教員が年配の教員に比べて極めて少ない年齢構成となっています。その結果、これまで長年にわたって多くの高校地学担当教員によって蓄積されてきた授業実践研究の成果などの継承が中断される危機が迫っています。

この状況への対策の一つとして、全国各地の高校地学教育関係者の間で、これまでの高校地学の授業実践研究の成果などを継承するとともに、地学分野の新たな知見を普及・更新するネットワークの構築することが考えられます。このようなネットワークの構築を目指し、本集会を開催します。

今回は、その初回として、全国の高校地学教育関係者が一堂に会して、全国的な高校地学教育の実状についての共通理解を深めるための情報交換を行うと共に、各地の地学教育の核となる教員同士を結びつける最初の機会とし、ネットワークを構築する方策について基礎的な意見交換を行います。次回以降は、ネットワーク構築の試みとその成果を確認・検証するための集会を開催する予定です。

プログラム、講演要旨、他: http://www2.jpgu.org/edu/zenkoku_koukouchigaku_2019/

参加者: 申込み 81名(内訳: 別紙参照)、出席 76名

3. 連合大会 2020 パブリックセッション準備状況

採択済み、プログラム公表(12月2日)

タイトル: 学校教育で使用されている地球惑星科学教材

コンピーナ：尾方隆幸・川手新一・山本政一郎・根本泰雄

スコープ：

高等学校の教科書をはじめ、学校教育で使用されている教材について、用語の問題を含めて学術的な正確性を分析する。セッション前半では、地学教育および地理教育のカリキュラムで設定されている単元を基準に、それぞれの分野の専門家から、教育内容と教材についてレビューしていただく。セッション後半では、教科教育の専門家や学校教員から、学校での対応についてレポートしていただく。なお、議論の対象は主に高等学校の地学教育および地理教育とする。特に文部科学省検定済教科書は国民全員が使用するものであり、地球の持続可能性を高める市民を育成するためには、一般市民に開かれた場での議論が必要である。

招待講演者：最終調整中

4. 地学オリンピック日本委員会

第12回地学オリンピック

予選申し込み：9月1日～11月15日 1982名（昨年1952名）

予選：12月15日、本選：2020年3月15日～17日、代表選抜3月17日～18日

国際大会：2020年8月16日～26日（ロシア：チュメニ）

5. 国際地理オリンピック日本委員会

第14回科学地理オリンピック日本選手権 兼 第17回国際地理オリンピック選抜大会

応募期間：9月1日～11月15日

第1次選抜：12月14日マルチメディアテスト

第2次選抜：2020年2月16日記述式テスト

第3次選抜：2020年3月14日・15日フィールドワークテスト

国際大会：2020年8月中旬 トルコ・イスタンブール

6. 日本学術会議地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 地学・地理学初等中等教育検討小委員会

11月末までに提言の小委員会案完成を目指し、メールによる作業中。

< 提言案の構成 >

題目：初等中等教育および生涯教育における地球教育の

重要性：変動する地球に生きる素養として

目次

1. はじめに - 地球に係わる教育（地球教育）の重要性 -

2. 初等中等教育における地球教育の必要性 - 特に新しい学習指導要領に関して

3. 高等学校における地学・地理教育の現状

4. 社会における地学・地理のリテラシー

5. 提言

7. 理数系学会教育問題連絡会シンポジウム準備状況

タイトル：疑似科学やデマに正しく向き合うために - 科学教育で何をどう伝えるか -

日時：12月8日 13:00～16:30

場所：東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟2階200号教室

主催：理数系学会教育問題連絡会

趣旨：わが国では学校教育において数学・理科・情報などの教科を通して科学教育がなされてきている。しかしながら、近年、確率・統計・科学的定説・科学的検証についての誤解や無理解、ニセ科学・フェイクニュースの蔓延、証拠に基づく議論・合意形成の軽視など、科学的な態度や行動に係わる問題が数多く発生している。まさに、科学教育で伝えるべきことが正しく伝わっていないのではないかと考えられる。本シンポジウムでは、このような状況の背景について、お二人の講師に情報化社会論および認知心理学の面からご講演いただき、科学教育で何をどう伝えるのかについて、共に考えたい。

事前参加申込者数：83名（11月16日現在）

8. その他

以上

添付資料 「全国高校地学教育関係者情報交換会」参加申込者内訳

